小高区市街地整備基本計画（素案）概要

■はじめに

本市は避難指示区域等の解除目標時期を平成28 年の4 月と定め、避難住民の帰還に向けた様々な取組みを推進しているが、住民が帰還するにあたっては、小高区の一刻も早い復興が求められていることから、帰還した住民が暮らしやすいと思えるまちづくりを実現し、地域の復興を加速する拠点整備を行うため、市街地整備基本計画を策定する。

■現状・課題

平成25年度に実施した、事業者や市民との懇談会で寄せられた意見を現状、課題としてとらえ、以下のように整理した。

『現在』について

～ベースの生活環境をきちんと整備すること～

日常生活がごく普通に安心して営めること

『過去・歴史』について

～小高という地域に誇りを持てるか～

故郷小高への思いを喚起するための地域資源の見直しと情報発信

『未来』に向けて

～未来の小高の可能性を信じることができるか～

外部との交流・定着・移住ができる環境づくり
新たな未来に向けたまちづくり（新しい産業の芽の醸成）
世界に向けた復興の情報発信

【基本理念】

～歴史に根差し、交流を通じた創造的な小高の再興を～

小高の歴史に誇りを持って、その地域資産を十分に活用し、世代を超えた交流を通じて、震災によって分断された地域コミュニティを再生するとともに、暮らしやすい安全・安心な生活環境を実現し、他地域の人々との交流を広げ、未来に向けて新たな小高を創造する。

【目指すべきまちのあり方】

①安全・安心に心を配り、コンパクトで生活しやすいまちにする。
②地域コミュニティを再生できるまちにする。
③雇用と産業を生み出せるまちにする。
④夢・希望を語れるまちにする。

【市街地に導入すべき機能】

- 福祉・健康、子育て・見守り、高齢者生活支援（安全安心）
- 自助・互助、アメニティ（コミュニティ）
- 商業、インキュベーション（経済再生）
- 交流・情報発信、文化・歴史、震災記録（夢・希望）

小高区市街地整備基本計画（素案）概要

■整備コンセプト

利便性の高い市街地の中心部に安全・安心な日常生活を支援する機能を集約した「コアゾーン」を整備し、その周辺に定住を促す。

安全・安心で利便性の高い日常生活を支援する場所	地域経済の再生に寄与する場所
多世代が交流し住民の絆を深める場所	豊かな地域資源を生かし郷土愛を育む場所

●商業機能

生鮮3品を中心として買い物ができる共同店舗及びチャレンジショップを整備する。

●地域支え合い機能

ボランティア活動に参加しやすい環境を築き、元気な高齢者、学生、主婦などのボランティアが、高齢者への身近な生活支援、子育て家庭への支援、子どもの居場所づくり等を支える拠点機能を整備する。

●子ども達の居場所づくり機能

課外時間等における子ども（小学生、中高生）の居場所をつくり、子どもたちの心身両面での健全育成を図る拠点機能を整備する。

●健康増進機能

市民が自ら健康を維持し、子どもから高齢者まで幅広い世代が元気に暮らすための健康づくりをサポートする。

●歴史文化教育機能

東日本大震災の記録や記憶を後世に伝えるとともに、地域文化、観光資源など、地域内外への情報の玄関口としての機能を整備する。

【概算事業費】　事業費：約2,433百万円
・設　計：約232百万円　　・造　園：約75百万円
・建　築：約1,998百万円　・共通費：約63百万円
・土　木：約65百万円

※上記概算事業費には用地取得費、測量費、除却設計・工事費、周辺インフラ整備設計工事費は含まない。

導入機能	施　設	面積
商業機能	店舗（生鮮、雑貨、直売）	約240㎡
	飲食（カフェ、軽食）	約61㎡
	製販一体型工房	約81㎡
	チャレンジショップ	約61㎡
地域支え合い機能	多世代交流サロン（学習室･ワークコーナー/図書コーナー含む）	約208㎡
	和室	約44㎡
	会議室	約50㎡
	貸オフィススペース	約56㎡
	事務室	約77㎡
子育て機能	屋内遊び場（幼児向け）	約142㎡
	相談室･見守り･（事務室）	約57㎡
子どもの居場所づくり機能	屋内遊び場（主に小学生向け）	約314㎡
	学習室（多世代交流サロンに含む）	-
	レクリエーション室	約112㎡
	音楽室	約51㎡
健康増進機能	トレーニングルーム	約91㎡
	入浴施設	約260㎡
	居場所スペース	約92㎡
歴史･文化･教育機能	展示室（震災伝承、歴史、文化）	約65㎡
計		約2,062㎡